

「空港運営のあり方に関する検討会」資料



2011年4月26日



中部国際空港株式会社
Central Japan International Airport Co.,Ltd.

1. セントレアの概要



会社概要



中部国際空港株式会社
Central Japan International Airport Co.,Ltd.

=

「中部国際空港の設置及び管理に関する法律」
(中部法)により指定された株式会社

設立日	1998年5月1日
資本金	836億6,800万円
主要株主	国 40%、自治体(愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市) 10%、 民間企業・団体 50% 計1,084名(2011年3月末現在)
従業員数	210名(2011年4月現在)
グループ総従業員数	840名(2011年4月現在)

空港施設・処理能力

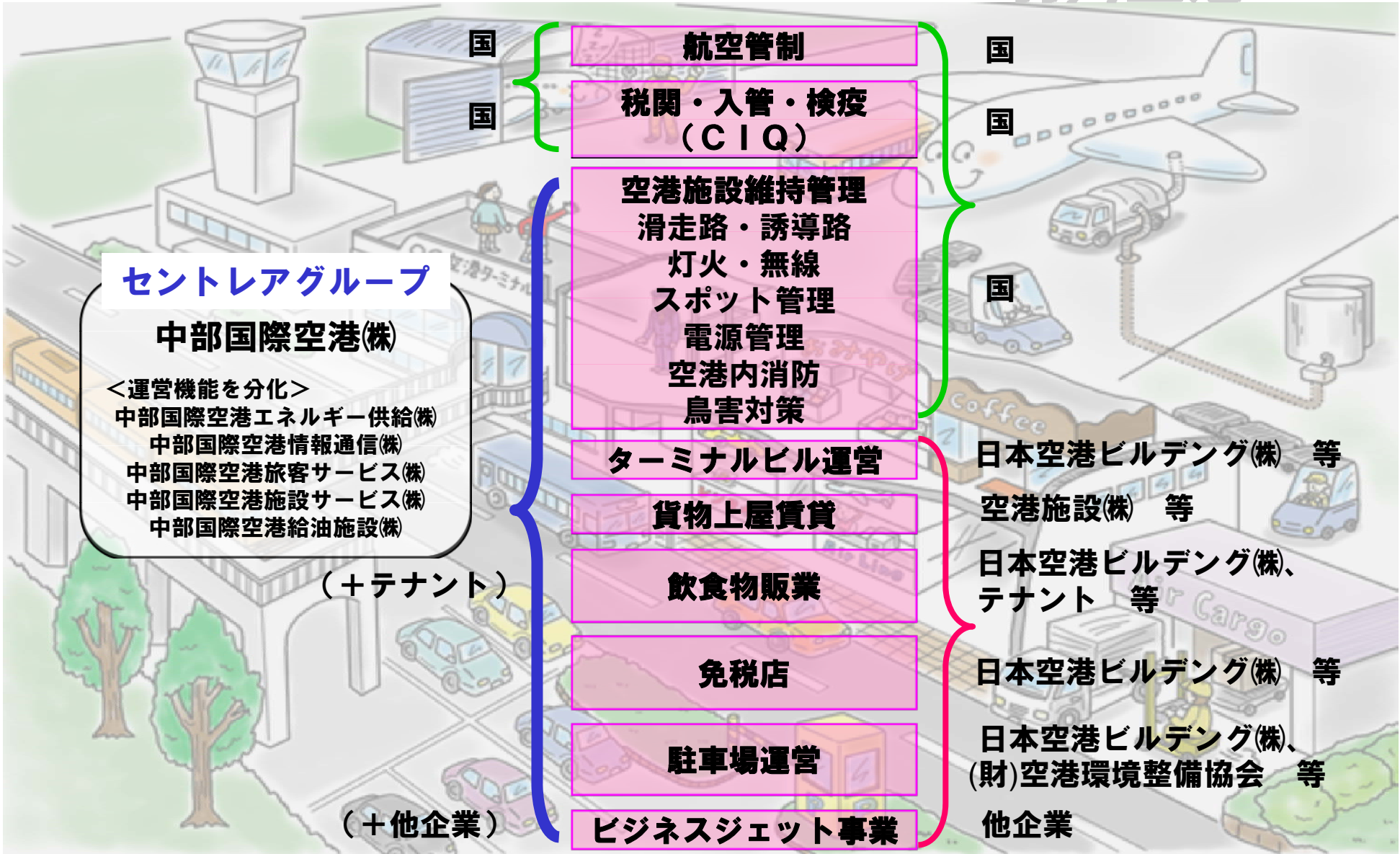
開港	2005年2月	運用時間	24時間
旅客ターミナルビル 年間取扱能力	年間 1,700万人	滑走路長	3,500m × 1
旅客ターミナルビル 面積	219,000㎡	2010年度実績 (見込)	年間 発着回数 8.3万回
スポット数	64		年間 航空旅客数 921万人

空港における主要業務と分担



centrair

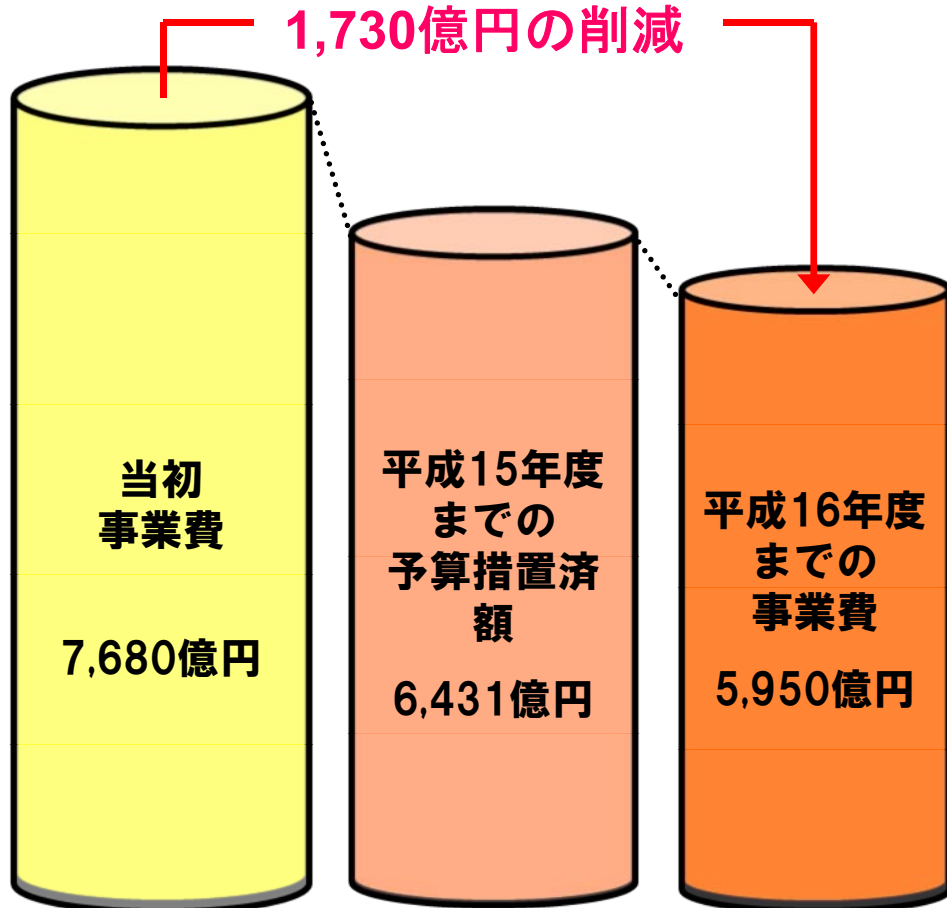
羽田空港



民間の知恵と創意工夫を生かした空港建設

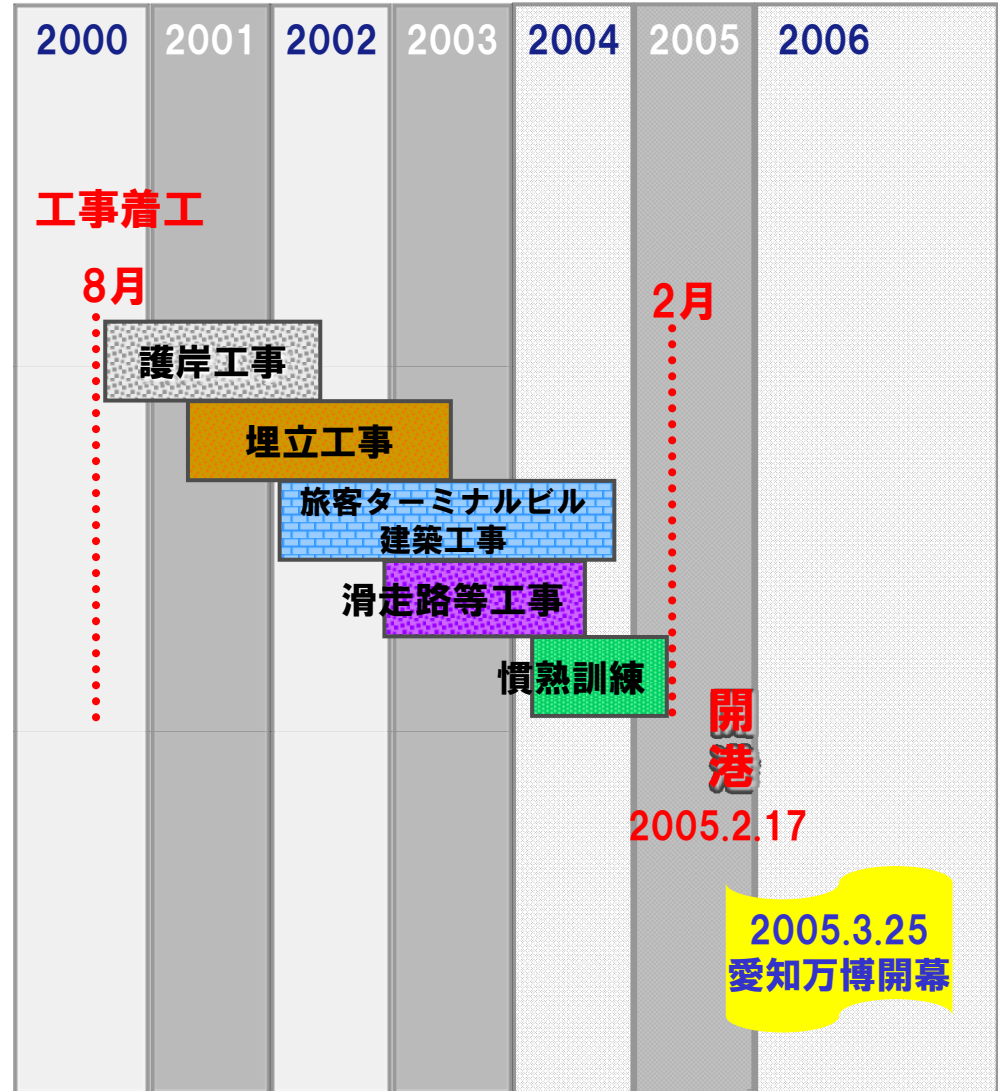


建設事業費の削減



- ◆ 構造のシンプル化
- ◆ VE提案の積極導入

工期の短縮

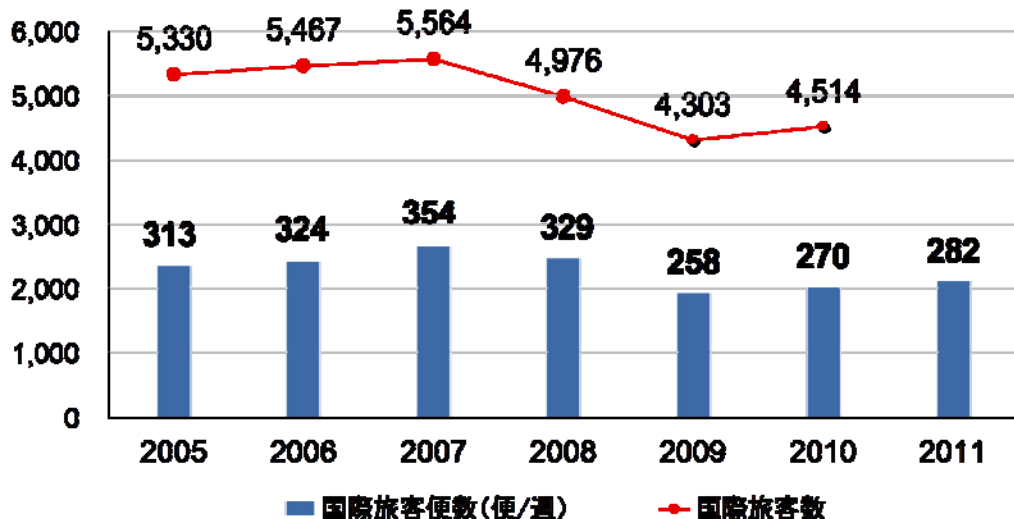


旅客数・貨物量・便数・収支の推移

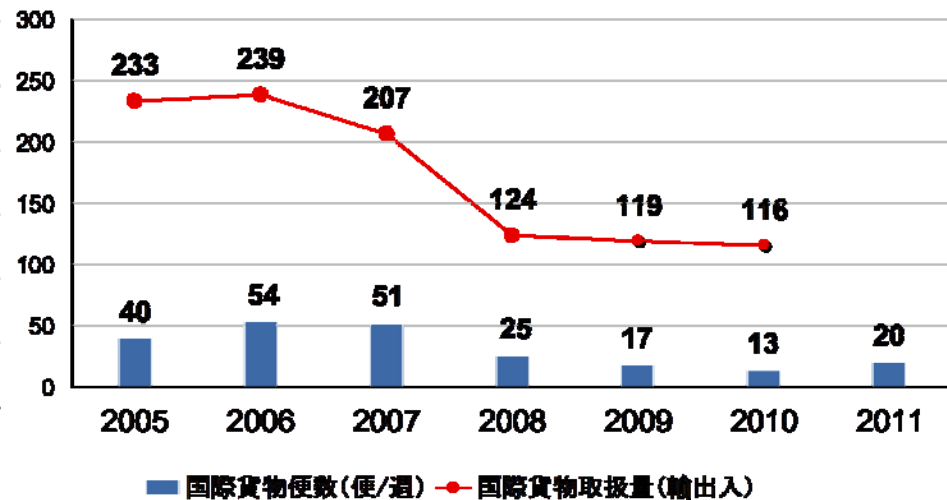


※2010年度の旅客数・貨物量は速報値、便数は各年4月1日時点

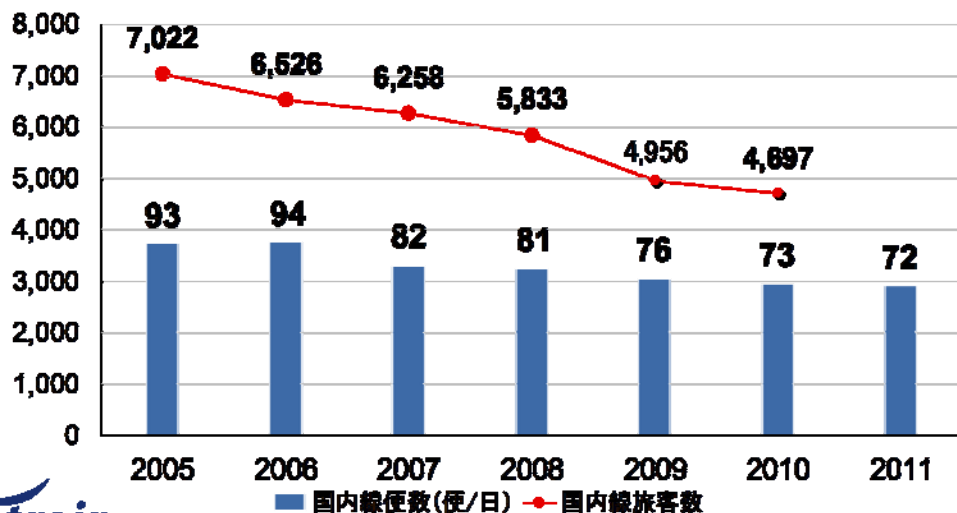
国際旅客数と便数の推移 (単位:千人、便/週)



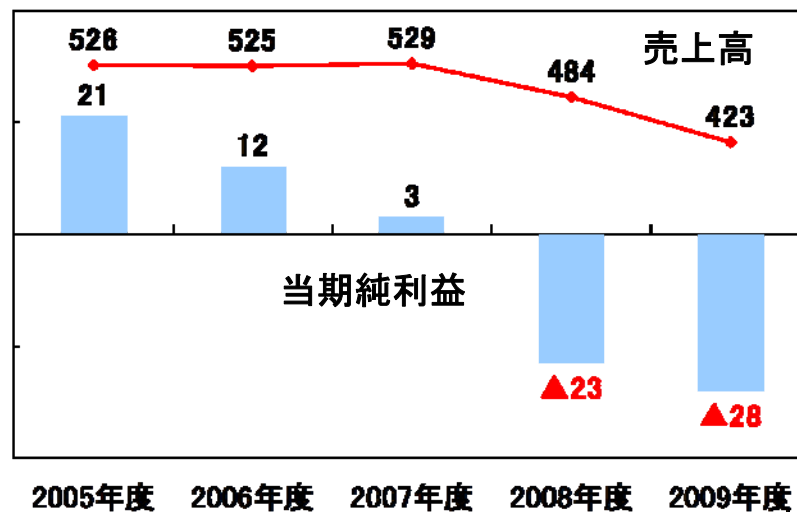
国際貨物取扱量と便数の推移 (単位:千トン、便/週)



国内旅客数と便数の推移 (単位:千人、便/日)



売上高と当期純利益の推移(連結) (単位:億円)



2. 民間企業としての空港運営



セントレアグループの経営・意思決定システム



- ◆ グループ各社が相互に緊密に連携し、一体的に運営
- ◆ 情報の共有・迅速な意思決定

基本理念

セントレアグループ中期経営戦略(2010-2014)

セントレアグループ経営計画(各年度毎)

- ◆ 経営戦略会議 : グループ全社役員参加の下、各部・各社の運営計画について審議・策定、評価
- ◆ 経営会議 : グループ全社役員参加の下、毎週開催し、空港運営に係る全ての課題について迅速に意思決定
- ◆ 月次決算 : 翌月3営業日以内に、速報ベースの収支状況を経営会議メンバーで共有、対策を検討・実施



基本理念・中期経営戦略・各年度経営計画



基本理念

利便性・経済性に優れた
競争力のある国際ハブ空港作り

お客様第一

環境への配慮と地域への貢献

オープン・アンド・フェア

健全経営の実現

風通しの良い企業風土の確立

中期経営戦略(2010-2014)

魅力ある空港

- ・施設・サービスの充実
- ・CS世界No.1空港の実現

競争力ある空港

- ・路線ネットワークの充実
- ・旅客需要の拡大
- ・貨物需要の拡大

先進的な空港

- ・環境経営の推進
- ・先端技術の導入
- ・新たな空港のあり方の模索

健全で活力ある空港

- ・人材の育成・企業風土の成熟
- ・財務体質の強化

安全・安心の確保

centrair

2010年度経営計画

外部環境:

JALの更生計画策定、
首都圏空港の容量拡大 等

⇒「反転攻勢」の年と位置づけ

- ◆ 路線ネットワークの維持・拡充
- ◆ 当期純利益黒字化の実現 等

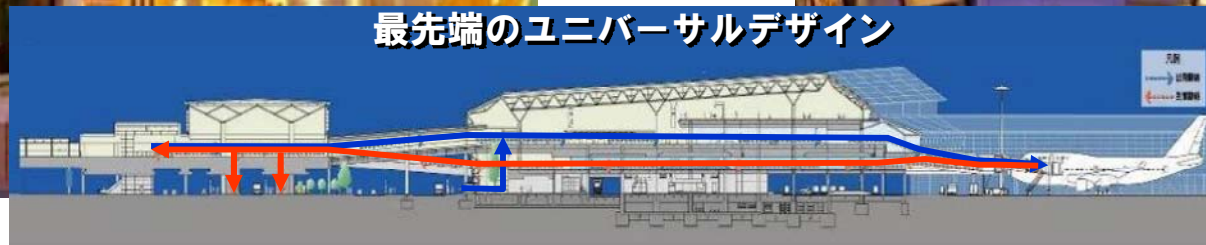
魅力ある空港を目指して①



特徴ある施設



最先端のユニバーサルデザイン



空港ならではのイベント



旅客ターミナルビル内での結婚式



制限区域内バスツアー

地域との連携



「アイアンマン70.3 セントレア常滑ジャパン」



展望デッキでの盆踊り

魅力ある空港を目指して②



CS推進活動

CS連絡協議会	セントレアグループが主体となって、空港島の全業者・組織と連絡会を開催、空港島全体でCSを推進
CS対応システム	セントレアグループ全社員が、空港に集まる「お客様の声」を共有
CS表彰制度	お客様のご推薦などを頂いた空港職員を表彰
CSサポーター	セントレアグループ職員がボランティアで、混雑時間帯などにお客様へのご案内を実施



CS関連で受賞した各賞

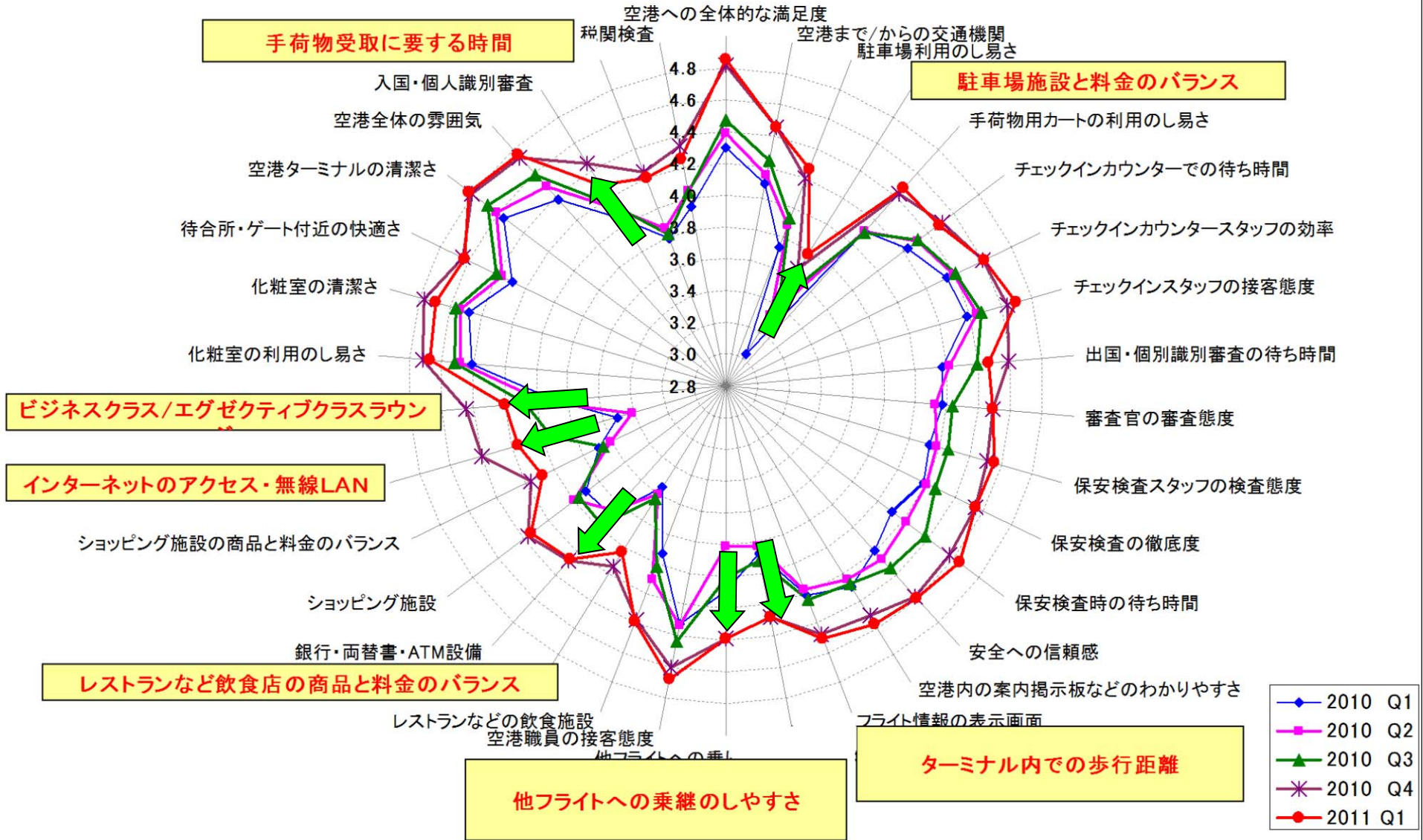
- SKYTRAX「Best Regional Airport Asia Awards 2011」第1位
- ACI「ASQ AWARD 2010」第2位
 ※旅客数500～1500万人の部
 【2005-2008年 4年連続第1位受賞】
- Air Cargo World「ACE Survey 2010」第1位
 ※アジア・中東地区貨物取扱量50万t未満の部
 【2008年も第1位受賞】



魅力ある空港を目指して③



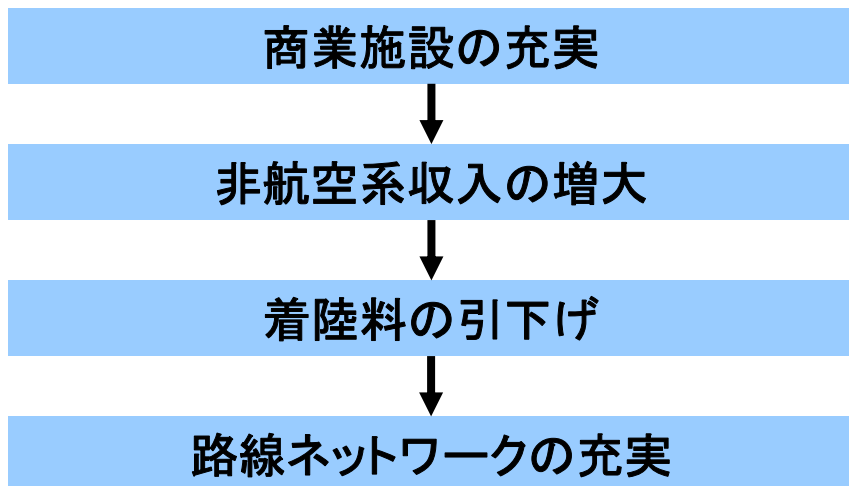
「ASQ No.1奪回」のため、チームを編成し、改善の取組み



競争力ある空港を目指して①



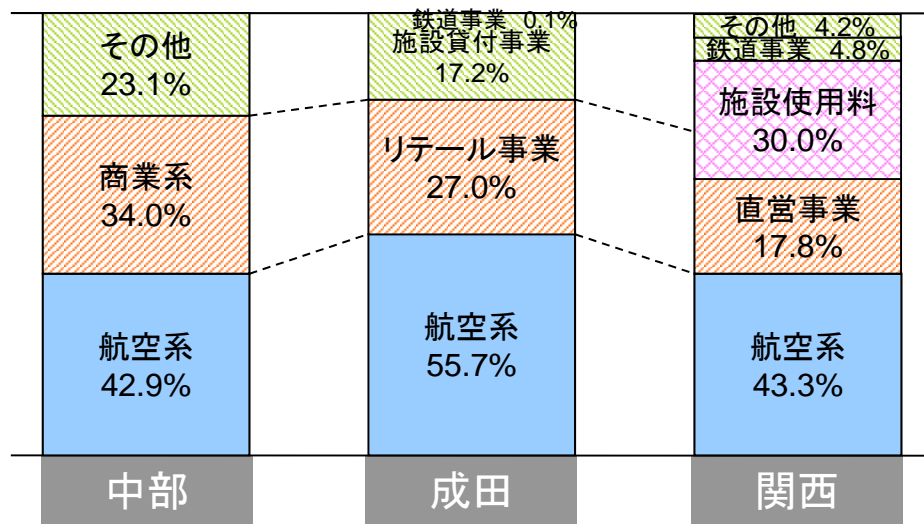
航空系・非航空系の一体経営によるビジネスモデル



<不動産の有効活用>

◆ 需要促進のための駐車場活用施策

	2009年	2010年	2011年
実施 施策		予約駐車場の拡大	
		予約駐車場の 6日目以降無料化	全駐車場の 6日目以降無料化
		臨時(屋外)駐車場の土日・祝日無料開放	
		遠距離旅客への5日間駐車無料化	



◆ 自動車メーカーによるバスラウンジを利用した研修



*2009年度各社
有価証券報告書等参照

競争力ある空港を目指して②



アウトバウンド旅客の渡航を推進するための取組み

地域(自治体・経済界)
と一体となった

1. エアポートセールス
2. 利用促進活動
 - フライ・セントレア
 - フライ・セントレア・カーゴ
3. 需要開拓

<ビジネス需要の増大>

中部地域の有力企業への
セールス・



中部地域の有力企業と
就航エアラインとの意見交換会

フライ・セントレア・カーゴ



<レジャー需要の増大>

テレビ番組等とのタイアップ



内陸乗継旅客の増大に
向けた旅行会社との
共同セールス



競争力ある空港を目指して③



インバウンド旅客の渡航を推進するための取組み

提携旅行会社

航空会社

海外メディア

観光事業者

地方自治体

観光関連組織

centrain



海外メディア × centrain × 観光事業者
観光関連組織

【TV番組、旅行雑誌などを通じた情報発信】

@インドネシア



海外旅行会社 × centrain × 観光事業者
観光関連組織

【ファムトリップ、商談会の実施】



@セントレア



@立山黒部アルペン
ルート



@名古屋

海外メディアや海外旅行会社を通じ、中部地域を旅行する商品への誘客や、セントレア・名古屋・中部の認知度向上を促進

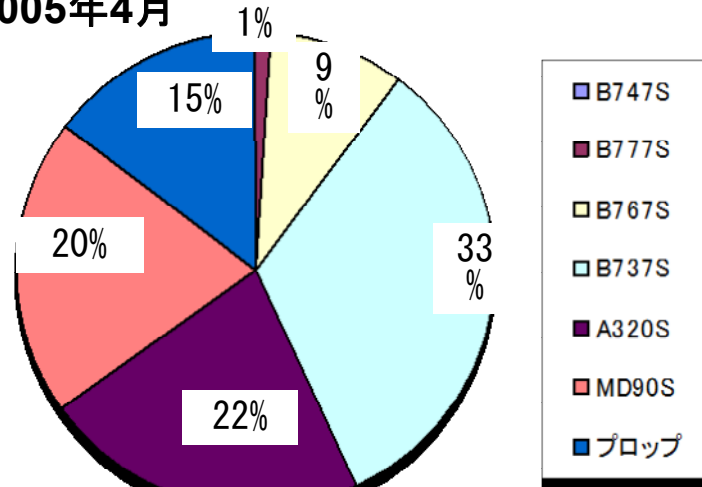
競争力ある空港を目指して④



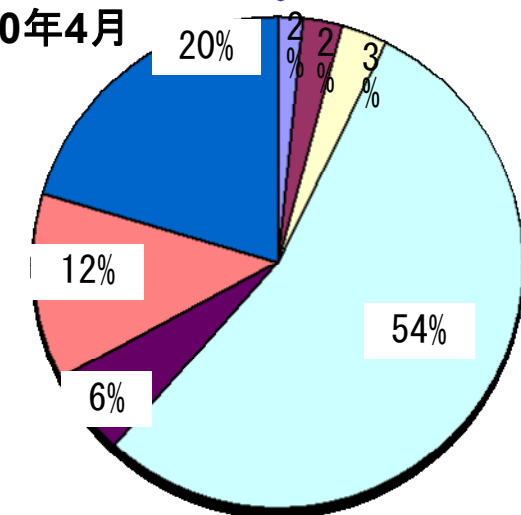
小型機の利便性向上のための取組み

＜小型機の増加（国内線）＞

2005年4月



2010年4月

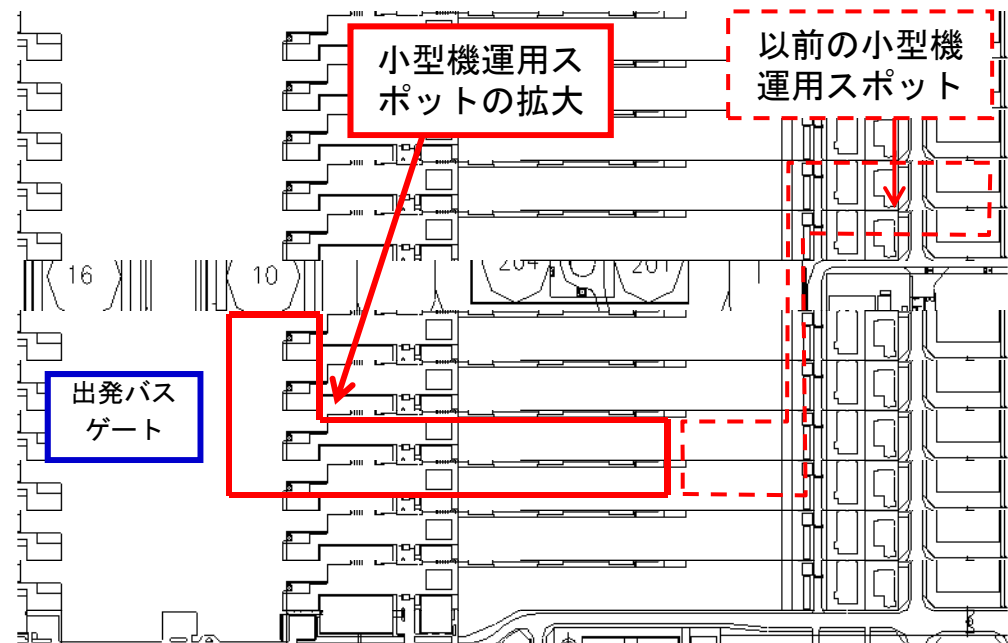


■小型機運用スポットの拡大

—航空会社への多様な選択肢

旅客動線のより短い、ゲート近くの固定スポットでの小型機運用を実施（自走IN/OUT、PBB改修他）

また、出発バスゲート至近のスポットでは歩行搭乗を予定



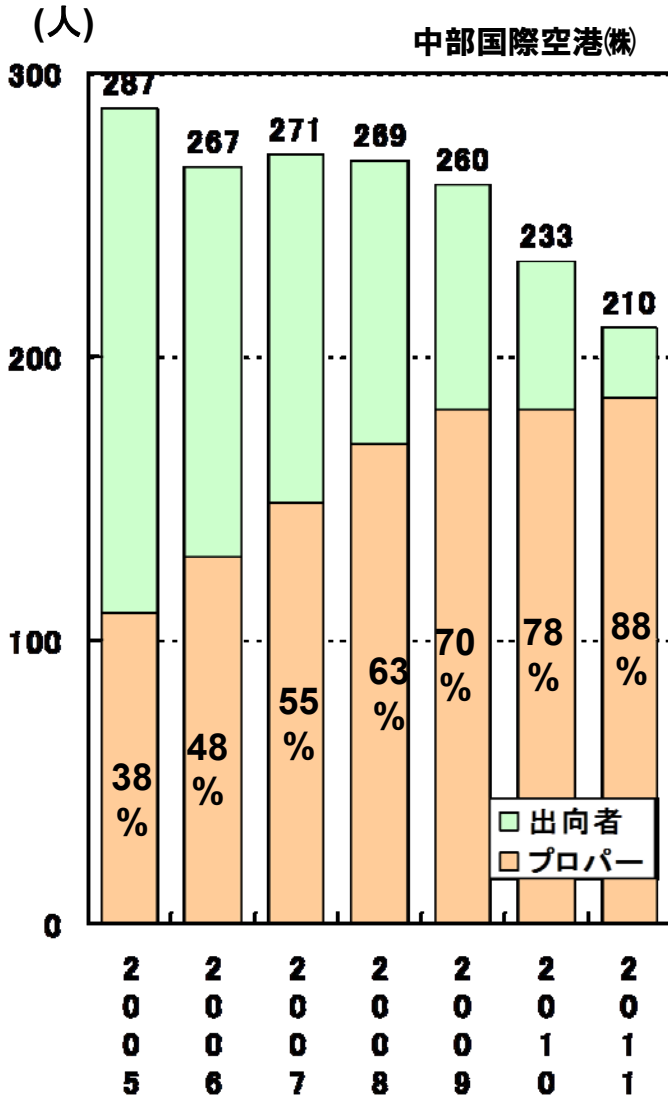
■小型ジェット機(100席以下)の着陸料特別割引

新規就航または増便に係る着陸料を1/5に割引

健全で活力ある空港を目指して①



プロパー化の推進



「改善スピリット」 「現地現物主義」の醸成

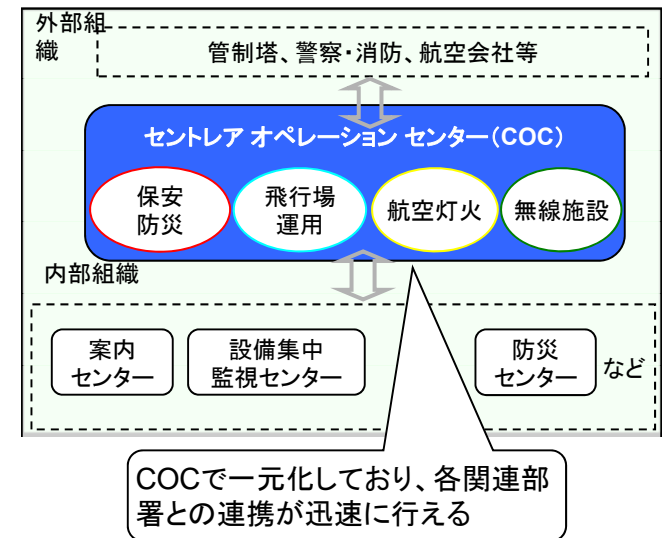
<QCサークル活動の展開>



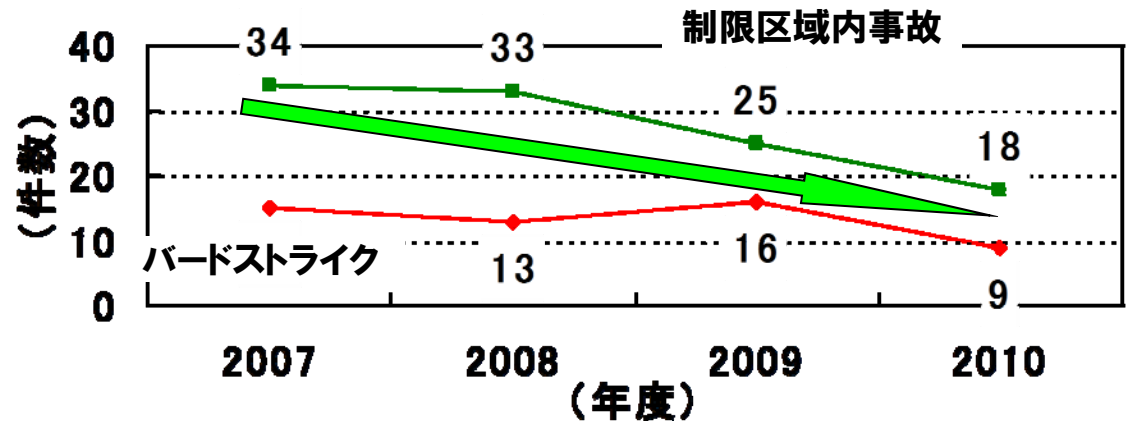
中部国際空港(株) 12サークル
 中部国際空港旅客サービス(株) 50サークル
 中部国際空港情報通信(株) 10サークル
 中部国際空港施設サービス(株) 11サークル
 計 83サークル

多能化の推進

<セントレアオペレーションセンター>



<事故等の推移>



健全で活力ある空港を目指して②



2010年度黒字化への取組み

- ◆ グループ全社での黒字化に向けたベクトル合せ
- ◆ 運休路線への代替エアライン誘致
→航空系収入の底支え
- ◆ 免税店等の商業系収入を増大
- ◆ 設備投資の厳選、コストの更なる削減等により損益分岐点を引下げ

月次でPDCAを回し、進捗確認と追加対策を実施

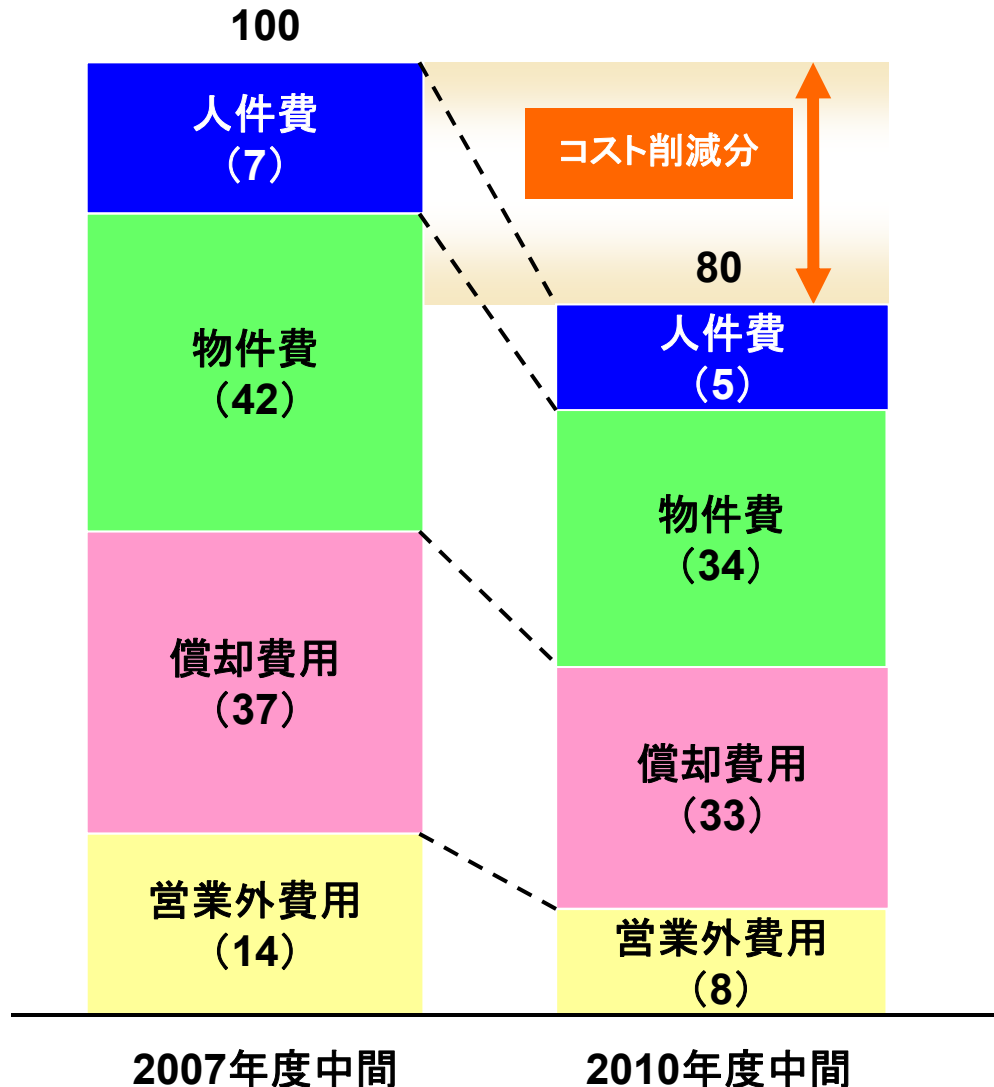
(単位:億円)

	2009年度 中間	2010年度 中間
売上高	212.1	217.9
営業利益	6.5	25.4
経常利益	△11.5	9.5
当期純利益	△12.2	8.9

コスト削減の継続的な取組み

過去3年間のコストの推移

※07年度中間決算時のコスト全体(売上原価除く)を100とした場合の数字



終わりに



東日本大震災への対応

国際拠点空港としての機能を発揮

- ◆ 成田発着便のダイバート受入
- ◆ 成田発着便のテクニカルランディング受入
- ◆ 在日外国人の帰国チャーター便運航

空港の設置及び管理に関する基本方針(平成20年12月24日告示)より一部抜粋・加筆

成田空港・中部空港・関西空港は、それぞれの背後圏の航空需要に応えることはもとより、**我が国の国際拠点空港として三空港相まって我が国全体の航空需要に最大限対応**することが適切である。

今後の見通し

震災・原発の影響から、短期的にはかつてない厳しい経営環境を見込む

- ◆ 地域の生産活動の停滞による企業活動の縮小
- ◆ 外国人旅客の大幅な減少
- ◆ 日本人旅客の旅行自粛
- ◆ エアラインの減便・運休

課題

- ◆ 大きなイベントリスクの下で、大規模インフラの運営という公共性と、民間企業としての採算性の確保の両立。
- ◆ 国際拠点3空港のバランスのとれた有効活用が重要
 - ・首都圏一極集中ではない航空政策を期待
 - ・完全24時間空港化のための第2滑走路の早期実現が必要

ご清聴ありがとうございました。



中部国際空港株式会社
Central Japan International Airport Co.,Ltd.